



社会貢献活動の推進

良き企業市民として地域・社会の持続的発展に貢献するとともに、自らも成長することを目的に、「安全・安心」「人づくり」「地域・社会の活性化」「環境」を重点テーマとして、経営資源(ヒト・モノ・ノウハウ等)を生かした社会貢献活動にグループ一体となって取り組んでいます。

被災経験の継承

震災資料保管庫は「地震で失ったもの、伝えるべきもの、そして生かさなければならぬもの」をコンセプトに、阪神・淡路大震災の被災構造物を展示しています。また、地震発生から全線復旧まで、623日間の緊迫した時間と関係者の対応を伝える展示、震災を教訓にした新技術なども紹介しています。専門技術者や教育関係者だけでなく一般公開を行っており、多数のお客さまにもご来館いただいています。2025年1月には、震災から30年を迎えますが、震災資料保管庫を通じて、阪神高速グループの安全・安心の原点を見つめ続けるための礎にし、被災経験を継承していきます。



震災資料保管庫案内の様子

外部団体との連携・協働による環境貢献活動

JBE(ジャパンプルーエコノミー技術研究組合)が設けるブルーカーボン・オフセット制度を活用し、大阪湾岸道路西伸部沿線で海洋生態系の育成・保全活動に取り組む自然再生プロジェクトを対象に販売された「Jブルークレジット」を2023年1月に購入しました。また、須磨海岸においてNPO法人が実施しているビーチクリーン活動に、大阪湾の海洋保全活動の一環として参加しました。今後もこれらの取り組みを通して、地域活動を応援し、美しい海の保全に貢献していきます。



Jブルークレジット
購入証書



砂浜清掃ボランティア活動

VOICE

供用中の積層ゴム支承を対象としたAE法による 残存耐震性能評価手法の確立に向けた研究

この度は、阪神高速若手研究者助成*を賜りまして深く感謝申し上げます。ゴム支承の作製、軸力・せん断の載荷試験を実施できる機器が大学内にはなく、基礎研究から発展させるためには研究費が必要でした。行き詰っていた時にこの貴重な助成を頂けたことは、私の研究にとって大きな進展となり、同時に高速道路を管理する阪神高速道路(株)から助成決定してもらったことが大きな励みとなりました。安全な社会インフラ基盤の構築に寄与できるよう、さらに研究を精一杯進めてまいります。

*「阪神高速若手研究者助成」とは、阪神高速道路(株)、(一財)阪神高速先進技術研究所および(一財)阪神高速地域交流センターが実施している、都市の高速道路に関連する分野における若手研究者の育成を目的とした助成制度のことです。



立命館大学
理工学部環境都市工学科
准教授

川崎 佑磨